

学部・講義：幼児や保育者の姿、保育の現場を思い描きながら

自らの考えを深める

幼児教育・青井倫子

1. 授業の概要

本科目は幼年教育の専修科目であると同時に、幼稚園教諭免許状の教職に関する選択科目（一種：必修、二種：選択必修）である。

授業の内容は、(1)幼児教育の方法及び領域のとらえ方、(2)領域「人間関係」導入の背景と意義、(3)幼児をとりまく人間関係の特質と機能、(4)幼児の仲間意識発達のすじ道、(5)人とかかわる力を育む保育のあり方である。

2. 受講学生 21名

大学院生:1名

2 回生:16名（教育学1名、教育心理1名、
幼年教育7名、音楽教育1名、
障害児教育6名）

3 回生:2名（社会科教育1名、英語教育1
名）

3. 授業の工夫

(1)幼年教育専修以外の受講生が多く、幼児教育の基礎知識や、幼児とかかわった経験、幼稚園を見学した経験などがまったくない学生も多数いる。そのような学生であっても、具体的な幼児の姿や保育場面をイメージしながら授業を理解できるような配慮を常に心がけた（ビデオ視聴、幼稚園教諭と園児のやりとりを青井の演技力の範囲内で再現、青井が研究上記録した事例をプリントで配付、等）。

(2)ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。

(3)学生が自らの意見や考えを持ち、それと照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問・応答のやりとりを心がけた。

(4)青井が幼児を演じ、学生に幼稚園教諭として対応させ、それに対してコメントや解説を与える方法も取り入れた。

(5)他の学生の考えを知ったり、多様な視点に気づかせたりするため、ビデオ視聴後のレポートは、氏名等を伏せて全員のを印刷し配付した（討論の時間不足を補うため）。

4. 授業評価の方法

最終授業時にアンケート（5段階評定と自由記述）を配付し、記入してもらった。

学年・専修・氏名の記入は、個々の学生の自由意思に任せた。

5. 授業評価の結果

5：たいへんそう思う（非常によい）

4：ややそう思う（よい）

3：どちらともいえない（ふつう）

2：あまりそう思わない（あまりよくない）

1：まったくそう思わない（よくない）

(1)学生の自己評価

出席状況 4.8

受講前に問題意識があったか 3.6

意欲的に取り組んだか 4.4

(2)授業に対する評価

テーマ・目的は明確だったか 4.7

話し方は明確・聞き取りやすかったか 4.8

重要なことを強調したか 4.6

プリントに沿った授業は理解を助けたか 4.9

ビデオ視聴は授業の理解を助けたか 4.8

授業への熱意・工夫が感じられたか 4.9

内容・レベルは適切だったか 4.2

考えが培われたり得るものがあったか 4.6

学問をする雰囲気は保たれていたか 4.7

教職に就くうえで有益だったか 4.7

(3)自由記述

<良かった点、印象に残った点>

・映像が大変効果的で理解の助けとなった。

・視聴したビデオも、よい事例だけでなく悪い事例も取り上げられていたので比較検証しやすく、勉強になりました。

- ・ビデオやプリントの教材選びが適確であり、その時その時に発見があり、集中することができた。
- ・ビデオ視聴後に提出するレポートに関して、受講者全員のレポートを配付されることは、自分の気づき、感想にはない視点や考えを知ることができる貴重なものだった。
- ・今、何を習っているのかが明確でわかりやすかった。
- ・とてもわかりやすく説明されたこと。
- ・先生が具体的な場面を想定して、子どもへの対応の仕方考える場を設定してくださったので、教室にいても、具体的な場を想像でき、考えが深まった。
- ・実際の現場での子ども同士のやりとりや子ども・保育者のやりとりの会話例を取り入れながら授業を進めていただいたことで、その状況がたいへんわかりやすく、子どもの実態を考える助けになりました。
- ・子どもとのやりとりの疑似体験や色々なシチュエーションの子どもの行動を取り上げられ、とても実践に活かせるものだった。
- ・幼児とのやりとりを想定した、先生とのやりとりは、対応についてより考えさせられることが多く、印象に残っている。
- ・ビデオを見て、グループで討論したこと。
- ・自分の意見や考えを発言する機会が多くあった点。
- ・プリントにおける知識を事例などと照らし合わせることで、知識がより具体的にわかりやすく理解できた。
- ・後から見てもわかりやすく復習しやすいプリントがあったこと。
- ・すぐに使える知識や技術も教えてもらったのがよかった。
- ・実際の現場でどうすればいいのか、というお話がたくさんあり、参考になった。
- ・幼稚園でのできごとをそのまま教室に持って来るような感じで、会話などのやりとりをするのが楽しく、状況もつかみやすかった。
- ・ほぼ毎回、先生が行った幼稚園や保育所のエピソードを聞かせてくれたこと。
- ・現場での話やVTRをもとに学びが進められたことがよかった。
- ・「人間関係」というのは、園で集団生活を行う上で欠かせないもの。これまで実習に行く時には「何となくこんな感じで」という意識（無意識）でいたのを見直したり、また実例

に基づいた分かりやすい理論を学んだりして、今後の参考になった。

- ・受講者と教員のやりとりが近い位置でとられていたことが印象に残っている。
- ・集中しやすい雰囲気でした。

<良くなかった点、改善すべき点>

- ・一回やったけれど、班での話し合いとか意見交換など学生同士の対話の機会が増えてもいいのかもしれない。
- ・プリントの空欄がとばされた時、混乱した。
- ・プリントはものすごく活用されているが、少し書き取りにくいこともあった。
- ・幼稚園教育要領に関連づけていくことを、授業の中でできるとよかったです。
- ・テレビの画面が小さくてビデオが見えにくかったのは残念です。

<その他>

- ・すごく和やかな雰囲気です。授業ができてすごく楽しかったです。
- ・後期の授業の中で、スポーツ実習の次に好きな授業でした。
- ・将来のことを考える上で、自分がどの道にすすみたいか考えるきっかけとなりました。
- ・幼年専修ではないけれど、とても講義が聞きやすくおもしろかったです。
- ・先生の幼児教育に対する熱意、愛情がとても伝わってきました。
- ・先生が「本当に子どもが好き」だと思っっているあたたかい気持ちが伝わる授業でした。
- ・幼稚園や保育園の子どもと関わる機会は少ないですが、前より上手にコミュニケーションがとれるのではないかと感じています。
- ・幼年教育に関して専門的な勉強はあまりしたことがなかったのですが、障害児教育とも共通する部分があってとてもよかったです。
- ・先生の授業は本当にわかりやすいのですが、それだけではなく、同時に考えさせられることも多かったです。授業は終わってしまいましたが、この“考える”という作業はこれからも自主的に続けていこうと思います。
- ・授業を受ける度に、子どもと関わる仕事は楽しそうだなと思うのと同時に難しそうだと、すごく感じました。将来どうするかはまだ決め切れていないけれど、もっと学んでいきたいと思っています。